**▶BCP業務計画作成のための話し合い―7月1日コロナ感染振り返り**

▶日時：2023年9月11日 9：00～10：30

**▶参加者：田中施設長・芳賀・丸山(記録者)・雫田・遠藤・利根川**

職員でなぜクラスター感染にならなかったのかを、丸山作成レポートを元に、プラス要因とマイナス要因、中立的要因を、KJ法を用いて出し合った。

1，KJ法で出た意見

（1）プラス要因

・利用者が職員の仕事を助けてくれた。

・ルールができていた。

・37.3℃で疑った。

・野中さんが職員を呼ぶ時玄関のチャイム後下がっていた。

・発見時対応した職員に知識があった。

・連絡体制はできていた。

・防護服着用の指示。・事前の対応イメージ作りができていた。

・入浴、洗濯で入室した後の消毒。

・初期の食器は熱湯消毒。

・食器の共用をしなかった（紙皿の利用）

・一連の流れが俊敏だった。

・利用者の助け合いができていた。

・隔離する場所があった。

・発熱が発覚直後隔離した。

・野中さんが体調を報告できた。

・微熱でも通院して検査した。

・病院にいく時防護服を着て行った。

・本人の意識ができていた。

・他の利用者が情報を理解して協力してくれた。

・対応時、対応備品があった。

・初動時に、対応備品を利用できた。

・危機意識があった。

・パルスオキシメーターがあったのはよかった。

・孤独感無く支援にあたれた。

・利用者が手洗いうがいの実行で感染を防げた。

・ルールができていた。

・利用者の協力体制ができた。

・使うお金の用意（配慮）

・利用者の検査後、外出した。

・クラスター経験のある利用者がいた。

・スタッフに2名の看護師がいた。

（2）マイナス要因

・防護服が茶室にあった。

・マスクや防護服のある場所を全職員への周知がなかった。

・管理者が不在。

・2日目の消毒が不十分。

・それぞれの事業者によって対応策が違っていた。

・オードリーといわはなへの連絡をしなかった。

・電話が使えなかった。